

RAINBOW FOR JAPAN KIDS実施についての考え方

- ① 招待の対象者は、震災孤児を主体に据えつつも、今回の震災で親族を無くしたり、家屋の損壊等で心に大きな傷を負った子供達とする。
- ② 宿泊形態は、合宿形式を基本にする。
(子供に孤立感や余計なストレスを与えないためです。)
- ③ 従って宿泊は米軍の保養施設や学校の寄宿舎にする。
(子供たちが一緒に生活、活動できるようにする方が良いと思います。)
- ④ 観光色を排し、「教育旅行」にする。
(自然体験、農業体験、文化体験、ハワイの子供達との交流等アイディアはたくさんあります。いろいろな分野の語り部の話を聞くのも良いと思います。先般完成した「ハワイ教育旅行ガイド」の中で開発した素材／プログラムを使って組み立てたいと思います。)
- ⑤ 各プログラムには当地の世話人(複数)をつける。
(各プログラムを主催者にまかせっきりにしないようにします。)
- ⑥ 滞在期間は通常のハワイ旅行よりも長く、少なくとも10日間は必要。
(実り多いプログラムにするためです。よって日本の夏休み、冬休み、春休み期間に催行するのが良いと思います。)
- ⑦ 参加者一人一人に目が届くようにしたいので、大人数は好ましくない。
(サイズは1回に20名程度以下にしたいと思います。)
- ⑧ 従って、このプログラムは数年にわたって実施する。
(一過性のものにするべきではありません。ハワイのブランド価値向上にも繋がるプロジェクトだと思います。)
- ⑨ 一度参加した子供たちとハワイが将来も繋がりを続ける工夫をする。
(これについてはアイディアは熟していませんが、日本の学校と当地の学校、学生/子供たち繋がるようにしていきたいと思います。)

以上